

增補

法々法々法々

全

津田文庫

文庫 1

1586



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四

淨水の法語目錄

白二の法語と一めす事
 法人の地隱の法語と一めす事
 一也等入トヤ小一めす事
 淨土の妙語と一めす事
 衆生此徒と一めす事
 平常三昧と一めす事
 人より道の人なるかゝるゝ紙示事
 目まゝの信士に一めす事
 流人ニツの大事あるゝ紙示事
 さとり小喚をさしと一めす事
 衆生の土小一めす事
 五支類圖と一めす事
 悟證のう小大事あるゝと一めす事
 和光行御の附学宗趣と一めす事



永井氏
 藏書記

天正

目錄

甘んぢり昔も今も人々には中た後の世界一生いづつ
 かりと云ふらむとせば身も心もひらいて廣くひん海を横
 走る者お互い終一とて一とあるとて継つて後
 ありとあるとらお違ふこといはず此世といひありあのみ
 深くちや一とせば身も心もひらいて一日行時
 ぬらぬと云ふつ小考するにまじげ暇のそらあるとて
 志に神を此極意と云ふことぞ儒者のこく意ハ
 いのちと云ふ佛法の極意と云ふことぞと云ふこと
 中人に共鳴せられたるも目あたのまのさふとんちりて
 候ふにせは此罪業と云ふ海も此世と云ふ業と云ふこと
 世人性といふあつれば世のつらあること父母師長といふも

下つびとく骨あり夫婦の中も流るるはいつあり宛
 初友二つ一家の事あり一おぼの長人のつらとて
 一人もあつたれはあつたれがゆふありとてあつたれ
 ともこつたあつたといふ人もあつたあつたあつたあつた
 衆國といふことあり二十はくは死す二十はくは死すわらへ
 三十四の死。後のつらとて死す後七十八乃至
 百八十年二年三年もあつたつらとて終つたあつたあつた
 ともあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 不定と流るるあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 行かぬと云ふるあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ともあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あり。お小後うとあり。世に...
 又二つの白...
 及て...
 事...
 只...
 そ...
 け...
 世...
 け...
 と...
 上...
 若...
 の...
 め...
 ろ...
 主...
 こ...
 只...
 こ...

け...
 と...
 若...
 の...
 め...
 ろ...
 主...
 こ...
 只...
 こ...

あり。親のちてはるも兵もつ。此國を承ふ。けり。あれ
し。兵をくつ。の器。文。婦。の。父。も。兵。に。た。れ。わ。の。の。あ。は。
兄弟。初。友。の。父。も。兵。も。わ。つ。の。器。も。つ。ひ。は。な。は。
よ。ま。つ。切。の。の。つ。ひ。ま。つ。ま。の。え。や。も。つ。保。く。も。あ。は。え。
ふ。と。敬。ぶ。ん。の。の。つ。ひ。も。下。と。あ。れ。し。志。も。せん。起。り。め。
ひ。身。の。の。り。あ。る。る。理。と。し。く。命。長。あ。る。と。あ。い。つ。わ。せ。
あ。い。り。さ。甘。ん。や。後。は。サ。も。昔。あ。り。も。は。な。や。し。に。
せ。つ。ら。り。も。サ。も。昔。あ。り。も。の。の。し。ゆ。も。志。の。も。ら。
ら。り。他。の。不。定。候。あ。る。時。は。い。ふ。人。間。も。出。生。し。ら。
あ。い。わ。り。く。残。り。の。の。あ。ら。む。と。あ。ん。く。と。も。も。ら。す。い。
は。世。の。不。定。あ。ん。く。これ。佛。法。も。あ。ん。く。百。年。の。中。に。

二 後人絶世のめん方ありとて示す

極意にして如来に十九年此書あり。佛法のよか。は。徳。道。の
根。本。に。あ。る。と。い。は。し。の。や。と。も。く。扱。ひ。あ。る。と。
わ。り。大。本。を。讀。み。て。佛。法。も。あ。ん。く。の。事。は。あ。り。ま。の。事。は。く。
佛。法。も。あ。ん。く。と。い。は。し。の。や。と。も。く。扱。ひ。あ。る。と。
と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。
佛。法。の。日。佛。法。の。二。を。た。を。説。き。し。り。明。佛。し。り。と。い。は。し。の。よ。し。と。
あ。り。の。佛。法。の。日。の。い。は。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。
つ。て。い。は。し。の。や。あ。ん。法。史。而。承。と。説。き。し。り。大。が。く。と。い。は。し。の。よ。し。と。
事。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。
ゆ。が。り。後。と。り。つ。と。あ。ん。の。言。も。と。い。は。し。の。よ。し。と。い。は。し。の。よ。し。と。

筆大志

これいふは、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と

つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と
云ふも、つゝの教のよきこと、教より一教、教國と

天木三郎

昔年をんわんとつこつこと。臥髪とそり。ちすすとひく
 ら中 舞のしん来。善と悦わひ。もしや此人懐お懐の
 と養のんご。んごそり後して。愛一偏のんご。法を以
 作御して。法を知識と訪ねて。自ご一んと佛に
 宿心し。後お代々。一と一生と。演説す。大波人。
 は幾子。親を憐。夜更。善ふ一と。おめぐるる。有とと
 ぢ。おと定。おと。の厚。のしりて。お心。お養
 よ。そ一りし。お。おん。あ。ち。おの。お。お。お。お。お。
 つご。おの。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 後來。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 あり。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

そのおのれと。つご。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 の。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 身。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
 徳。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

さくらと美。造しくおぼせ金液美。金條としごび
 病ふたやまき生とあり。死といふ。是とわんかん
 是と親宗と。なつらんや。親とわん佛性のはま専
 ん地はつらるるも。ぜん宗とあり。昔せん律。按へん
 けり。もま。死せん。親といえ加し。後代親は法
 ん。おらん。と。親のづ宗と格へん。これの。由さ
 律と。親ある。れ。更といふ。まの。公案ありとも。其。一。公
 と。この。定く。かり。親へし。大勢に。大悟けり。老僧は
 けり。も。前この。の。けり。は。加へ。坐ま。る。親ん。着る。も
 ん。親あ。る。れ。親の。指示。小。む。は。法。各。く。親へ
 と。あ。る。人。人。と。う。ま。一。人。も。ら。る。る。人。か。り。は。り。と。

若くは。大悟せん人。も。親ふ。も。ん。や。此。大。親。ふ。け。り。今。時。何。ふ。事
 の。け。り。と。あり。も。た。お。く。父。女。と。學。ま。ん。や。老。僧。は。感
 ん。の。親。定。三。條。け。り。親。ふ。一。句。一。字。も。子。と。成。け。り。と
 い。も。今。時。け。り。雄。辯。も。ま。人。の。部。親。と。親。け。り。親。ふ。と
 い。り。も。ぞ。お。ぼ。た。然。ら。り。親。向。け。ん。と。親。向。け。り。親。ふ。と
 老。僧。覺。來。も。思。は。れ。ん。又。何。れ。か。と。や。老。僧。は。も。る。色
 の。も。り。切。親。ん。け。り。親。せ。ぎ。も。親。道。の。親。む。け。り。何。と
 言。ふ。さ。も。い。う。け。り。親。と。親。む。け。り。と。親。ふ。人。親。ふ。人。
 何。そ。一。鳥。も。木。ぬ。人。是。又。老。僧。の。の。け。り。お。わ。ん。は。ん。親
 出。け。り。佛。性。に。代。は。り。法。柄。と。も。佛。性。の。教。の。お。け。り。
 親。來。と。い。い。と。よ。ん。道。の。親。む。け。り。づ。も。お。わ。ん。は。ん。親。む。

有るまきと也。老僧は暮年のなりとも、却て一。其の老を
破くは、是の如く、せしめて、精進と成りて、一。

六 平車三昧と一め法

ある傍、教起ちて、回く、云、和尙、平日、青天、白日、也。其也
いあり。 仰、其日、維摩、經、云、法、不、比、空、也。一と云く

一や、この佛性、白日、也。云、其の如く、と、其、小、比、之、
ある、が、中、也。

傍、又、曰、和尙、平日、其、也、云、又、た、さ
ま、して、居、る、也。 仰、其、曰、其、子、其、也、一、也、云、其、也、
か、す、其、の、今、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、

平日、三昧、に、して、ごん、ぐみ、其、一。 傍、又、曰、和尙、平日、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、

脚の目、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
老僧、今、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
何、以、修、人、の、目、一、老、僧、今、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
聚、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
あり、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、
其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、と、其、也、

道之徳上人一人とてなりんばおん後其目くは
 すきおとつりふのそあつて教してお生とらら流んと
 憐へるとは悲しみのこみおれとてこのこらくおの
 教よひけること平慈これ佛のこめや兵ある件と求
 毒ふとめちらおとりのきる人のこま多のこみ密の
 こくひをもその見とわらるとすくふとさつとをら
 人回何そこおれんや。毎く人回ふ出ま一。慈悲
 教をよとまあるまうにを専ん地修修てお総け
 といとゆること人いせんらひありて誓いなり大い
 か。地修修とを平日坐せんまて。よふお
 あらうとて。成佛とあるとあり大衆の流る。到りは

死後の成佛のとは。かまも更ふとまあをいんは。成佛
 ちく。枝く念りてあす。あつて。信ん。修修。て。生
 かく。成佛を。と。く。と。の。を。流。る。是。即。佛。の。直
 せり。成佛の。ら。り。ら。あり。け。も。あ。便。を。加。に。老。僧
 本日示処と大衆のこら。又。大衆。最。上。乘。此。本。法
 あり。お。小。静。坐。不。相。思。と。成。佛。の。法。と。と。れ。お
 教。を。い。へ。と。と。ば。お。一。か。と。流。あ。と。あり。佛。法
 の。こ。ら。は。儒。道。小。静。坐。を。ま。め。り。神。道。小。静。坐
 あり。又。安。坐。を。ま。め。り。その。わ。り。誓。を。軍。一。あり。お
 して。い。づ。ま。と。つ。ら。と。り。極。後。と。と。の。く。ま。を
 只。を。書。あ。り。處。ふ。り。と。の。を。の。る。と。ま。も。

あるべし。聖賢佛道、つとも報恩と同一して外の事に
 わらざるを信ふ事、其の妙契も元一因として大教の
 起す中、其の微細の法、其の縁法、亦其の縁法の
 故、思ふべし。夫れ又、如来の人として報恩、つとも
 ありやう。其の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 所の思ふべし。夫れ又、如来の人として報恩、つとも
 の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 と其の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 佛の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の

いふべし。夫れ又、如来の人として報恩、つとも
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の
 縁法の縁法、其の縁法と同一して、縁法の

謙とあり人を没死するものと知ればいふ不生不滅
此大事あると云ふに未だ一終りては是とありては
ある一賢人といふと云ふるもなりたるなり
その外異國歴々の法士といふも聰明奇才ありや
以上也。外此の法法とありて儒士ありて專とせし
人たまき之は是儒を以て仲小智とる此理あり

十一 戒此此より云ふなり

一主素素仲小室して云今生きて儒の云と殺生とありて
そはありて室のありては儒とありて又ありてあり
かのまき人の 仲の世と無業とありて人ありて
何く業とありては人ありては儒とありては

儒の主人の教を以てありては儒の主人の教あり
そはありてありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり
一の大師の教ありては儒の主人の教あり

撥議小ねく。六十棒。速小入。事小又。伊礼礼。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

源朝の御。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

出陣来りし。其小出陣一來し。を傳兵と名をせり。其後
 王侯も亦其子の徳大徳者も今も小見と名をせり。其り
 古制公案と管見とを。吾大徳すとあり。其後を叙と
 せり。情とあり。海小見陣小こまけ。其女のつひ。前
 不更とせし。是あり。大霜野此人天ト小出ま。大入
 大入軍軍をせり。陣をきり。或もや後かとい。いと
 此見陣かとい。或も此見の先馬。其小入とい。先馬に
 仕せり。の住ら。其いと。其小入とい。其後者十二歳の時に此
 友とせ。其同年にて其陣の病とあり。其の中は死す。
 其見とあり。其生死の事。其あり。其感して。其念ゆ
 其り。其一二。其小出陣する。其と。六七日。其の月。其小出陣する。

其備れ。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其
 其。其後。其あり。其小入。其事と名をせり。其り。其後化の一人。其

過去七佛と云々摩訶大脚及摩訶波脚自修の祖師
はたの或ハ孔子或ハ天照大神或ハ文武新教此徳賢
人をも自化此父母兄弟自化の親族朋友も生る
死後づきの或いふ事ありく處をすとも今の中此事を
らるるも或いふ不見徹せざればまことの佛なる脚
あは波多や或いふ事んば生死自在を以て大解徳の人
ことなり一毫の老僧幼年初人のこととて徳も人
あは其美此脚の或いふ事大徳徳の密に或いふ事
志 和光行脚の或いふ事学末意と云ふ事

脚一曰前不飛日昔老僧和光行脚の或いふ事越後の或い
脚さる大年此脚中一子右と願する上りり早歳より好業

此て文才甚なるを脚の名者和尙也と云ふ事
て或いふ人の或いふ事一やむは書五徳来此注しや
がとて佛法とけつるなり一ありと佛僧と云ふ事
奴りのとり。此双親後日の果報と云ふ事老僧と云
其見を加へしんすを佛用是少利也。或いふ佛法
をけけりなり此中承佛法の事ハ佛法の根原也
ふいふ事或いふ事或いふ事或いふ事或いふ事
法と云ふ事或いふ事或いふ事或いふ事或いふ事
ふいふ事或いふ事或いふ事或いふ事或いふ事
これや細あるといふ事或いふ事或いふ事或いふ事

天木

三十一

おまわりと後々。すくまらん。虚せんものにて。元来伊と
れま。幸とちの。是ありて。佛法とせしむる。 老僧曰
ゆくと。学者う。は。あまご。る。う。れ。是つ。この。は。衆
が。く。或。ハ。佛。は。ハ。兵。あ。へ。ん。虚。後。のみ。は。く。元。来。あ。ま。を
た。う。ま。事。と。思。つ。ま。し。と。つ。き。き。之。佛。は。た。あ。ま
の。と。知。解。て。佛。法。と。云。ふ。は。あ。り。ぬ。は。都。て。佛。法。と。し
て。は。く。ま。ま。し。と。云。は。ん。の。あ。ま。と。云。ん。の。は。衆。の。た
ま。り。の。あ。ま。と。云。は。ん。と。云。何。の。と。云。つ。け。て。衆。と。云
は。の。と。云。つ。ま。く。佛。法。と。云。ふ。は。あ。り。ぬ。は。ん。だ。
あ。ま。の。と。云。は。ん。て。儒。と。云。は。ん。の。と。云。は。ん。と。云。は。ん。と。云。は。ん。
い。ま。こ。ろ。と。云。は。ん。一。一。佛。法。佛。道。と。云。は。ん。と。云。は。ん。と。云。は。ん。

先。因。此。世。間。小。流。有。一。事。代。り。等。と。ハ。佛。法。は。た。一。か。う
な。神。の。あ。ま。の。神。性。小。の。あ。ま。佛。法。と。云。は。ん。を。云。は。ん。
只。佛。法。の。ま。ま。と。せ。ん。づ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
この。先。つ。ま。が。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
と。云。は。ん。を。解。つ。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
その。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
會。衆。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
具。足。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
と。云。は。ん。と。云。は。ん。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
と。云。は。ん。と。云。は。ん。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。
日月の影人の影と解れしといふ事。あまをさす

あまをさす

三十一

可と云ふ。宜しき物も不道おと具と。うらむ影を
解り。せむんぶといの物。吾れあり。をわの。作おあり
とて。形神をきわめ。いふ。此免つ。きう。記の。其。伊。と
か。と。西。と。空。と。う。り。か。ハ。免。有。ご。こ。佛。法。を。修。め。る。か。多
か。あ。ハ。空。と。お。へ。あ。う。う。ふ。道。た。う。佛。法。は。な。と。修。め。る
修。め。る。の。せ。人。は。不。修。修。す。佛。法。お。不。修。修。る。ん。や。士
修。修。て。云。我。道。ふ。と。甚。一。教。を。佛。法。の。と。名。と。ま。ん。と。衆
悉。系。一。也。を。信。回。う。き。佛。や。佛。ご。う。と。云。と。別。を
奉。ふ。何。と。と。今。自。と。知。一。は。仏。道。と。く。と。是。佛。の。名。を
是。人。の。具。く。佛。法。の。妙。形。也。は。づ。ん。の。免。を。佛。法。を。修。め。る
佛。を。と。免。解。り。これ。と。佛。法。を。免。解。め。る。事。と。云。ん。や

是。元。來。佛。の。義。と。わ。り。佛。法。は。な。と。修。め。る。一。是。と。修。め。る。て。い
是。佛。の。不。佛。法。を。我。づ。ん。の。免。を。免。れ。と。あ。は。は。く。て。却。て
佛。法。を。う。ら。む。め。く。む。お。小。我。づ。ん。と。う。ら。む。に。く。む。い
わ。ら。う。是。是。大。免。れ。わ。り。や。大。父。育。ふ。り。や。士。が。あ。ら。ぶ
不。の。云。信。と。免。解。め。る。の。書。と。や。う。と。地。の。間。わ。り。あ。ら。書
と。や。く。と。或。ハ。儒。士。或。ハ。神。士。或。ハ。佛。士。或。ハ。道。士。の
或。ハ。奇。士。或。ハ。軍。士。或。ハ。醫。士。何。も。皆。佛。法。と。云。ふ。二。と
修。り。平。免。け。何。と。う。と。あ。ら。う。身。と。心。と。を。け。れ。く。お。小
と。修。め。り。や。い。げ。佛。士。の。免。之。士。云。來。免。飛
今日。始。て。是。の。妙。理。を。承。今。う。り。四。見。を。修。め。る。一
修。め。る。佛。の。修。め。ら。げ。ん。と。云。く。此。を。修。め。る。一。是。と。云。く。免。解。め。る。事。と。云。ん。や

又水法
三十一

三十一

はすれおふ深遠せし事二十餘日士場も大変更を成り

(十五) 大敵王史とあり

仰おると大敵小敵の更なる大敵の百方済の大敵を
共一人めと揃るすべしとくぬし成るこふものを
史王師のつと大敵情を起して深更し趙列の無を
致せんり又や色しとくせんも深更しく居る中も色此
事ぶの無忍起し大敵の大敵小敵の更の城を
うげひしとく。ゆびく深更しく大敵の二念と宝剣を
無忍大敵の更も色しハ共小とく色し成るものと
色しゆは作住出川た小略せバ大平の目極く方人
を傳る色し変る化更無とといふも色し人なり深更し

懐りめん者。どうり此言之。能懐。てか。のちのさ

(十六) 津人委人と一めと事

所一日示。白人の具足して二種の人あり更成りの人
必より白人の更へて深更しく二種の人ありと深更し
さうぞと巴中もすれバ。共小更へして深更の大平の
くなるとし。い。づら。お。い。の。深。小。如。来。を。始。り。更。を。を。一。色。だ
る。和。威。を。和。ち。色。深。更。は。更。更。に。更。の。の。め。小。平。と
し。ふ。と。大。親。せ。の。わ。い。ん。わ。く。こ。と。深。小。更。と。遠。く。さ。る
し。と。や。深。小。深。更。あり。 二種の人の云ふ。ある津人と
委んと。委んと。は。白。く。ん。無。忍。の。念。也。 津人と云ふ
は。白。く。無。忍。の。起。深。也。是。即。津。人。佛。性。也。 津人と云ふ

三十二

同ふありと又二三之なる燈と悲あり燈の如くある
 又ふあつと悲あり 濟ん佛性の本行あるなり。又此の
 善惡の善んを 濟ん本行 善んを別之涅槃。各自
 の人々善惡を別此んを別すん。これ我まとの一人也也
 此れ是ありと又之入申すまればこのやうなる無常
 無常なあさ海一きつんを佛性を一つがのてく。佛と
 ありまると悲あり。これより更ありと。此を我と我とは
 此れ佛の心を違ひて一大事と察する。此れ我れ此れ
 善惡の心をとる。これ我れ此れと。此れ余一人なり。われば
 つんも十色わりと。此の一人はつんは又何也。あつとつんに
 此れも善んありと。此れ佛性佛性の也。未だ此れはつんの見
 づらん。今此れはつんをさるる。此れ我れ此れ。若れ此れ此れ。佛性を
 今此れ此れ。佛性をさるる。未だ會歎あり。こころすまれば此れ
 りあり。一善んがせり。此れ善ん生きた滅す。増す減せず
 と。此れ善んが佛性の也。又此れ佛性の。善んの此れ佛性の
 此れ。善ん更歎あり。佛性佛性と明悟。是佛性の也。下

(十七)

佛性佛性此れ佛性の也。未だ會歎あり。

佛性佛性の也。未だ會歎あり。こころすまれば此れ
 處ありと。此れ善んが佛性の也。又此れ佛性の。善んの
 此れ佛性の也。未だ會歎あり。佛性佛性と明悟。是佛性の也。下
 佛性の也。未だ會歎あり。こころすまれば此れ
 及。此れ佛性の也。未だ會歎あり。佛性佛性と明悟。是佛性の也。下

八女夜のこふ淋んや。或は世に親言の車東文殊は地獄
 ありと云ふあり。此の世に欠二さいの物も東あわゆる
 と二首の命。老傍やく。おまのこも。海流歌とゆふを
 新妻悟り能て自初へ。元東大道欣かたの極つる者。

① 極といは流の袖行と示す

附一頁示す。日た田といは流の袖は行はる人忠の言もぬ
 かなんと思はれ。おふ成佛のなとある人。兼佛の道と自會
 悟也。こころは一行成佛のりつら。如來四十九年の車最
 二乗の車流あり。三世流佛の無現の是るこめ也。教も
 の教もこれこそめ也。 一人忠と云人の言にて車の
 脚れめぐるこ也。おめと云ん忠の言をいば。世々人を後會福

を教も人の人々。奉時十二時中これ人の二つが教も
 無ふは教もくも。車の輪のめぐるごとく。めぐり教む也。取
 とは。夫人と。こころお新く。はんめぐり教み。取との意も
 人々。おま小僧て。めぐりくうみ。老人と。うの。りこふ
 つけく。めぐり若み。おま。人々のまに於て。めぐりくうみ
 女人と。女人一なる小僧く。はんめぐり教む。商人と。賣買
 僧く。めぐり教み。小僧を耕他おは若く。めぐりくうみ
 言位と。言位か。小僧て。はんめぐり教む。小僧と。下賤
 かる小僧く。めぐり教む也。これ事終れば。彼く教む。心
 内まば。おま。み教く。一年一月の教と。冬と。二月と。安
 根と。おま。の。はん。の。二つが。は。おま。へ。ら。り。く。と。車。れ。の。

月と掛とつくと。又おほくるとわすは二人の男ととも
まゝ。突如の中に入。北。情。物。忽。打。う。せ。く。明。お。つ。と。重。た。か。く。大。夜
とり入ると情の所。く。く。と。見。え。す。包。う。ら。く。せ。ら
人。つ。ん。と。情。も。又。く。毛。一。つ。ん。と。夜。ま。ま。重。た。か。く。の。う。ら
う。す。ら。と。重。た。か。く。と。り。入。る。情。の。包。つ。ま。う。ら。く。せ。ら
報。き。火。と。と。と。一。入。る。包。一。つ。ん。と。情。を。包。に。つ。く。重。た。か。く。て
情。め。と。掛。つ。と。重。た。か。く。の。ま。き。ひ。の。う。ら。く。せ。ら。た。か。く。人。の。心。を
若。も。今。と。一。回。と。ち。と。と。一。入。る。行。き。之。情。情。の。ど。く。重。た。か。く。り

③ 近侍の傍小あま

附の近侍の傍遊遊あして他の一寺に去るお見す。去る
甲く公。汲水老。仲。平日。い。う。ん。が。流。小。垂。流。と。や。 傍。公。老。僕

平。日。の。奉。と。扱。一。法。家。と。三。部。あ。く。大。教。と。起。一。七。佛。祖
の。く。お。小。月。性。と。情。人。也。 去。る。公。汲。水。老。附。の。示。而
お。ひ。あ。る。傍。り。 傍。の。公。先。と。く。重。た。か。く。汲。水。を
僕。誤。い。づ。と。の。前。の。ま。 去。る。公。汲。水。老。六。部。大。附。の。日
女。来。之。物。づ。ま。の。前。に。松。葉。と。ひ。ん。と。女。来。之。物。の。前。に
あ。の。く。重。た。か。く。と。り。入。て。は。情。の。と。り。情。人。の。重。た。か。く。人
ま。お。わ。く。六。部。大。附。が。女。来。之。物。と。公。人。重。た。か。く。と
あ。ま。一。汲。水。を。附。人。と。一。と。重。た。か。く。せ。一。と。公。人。重。た。か。く。と
ま。く。重。た。か。く。と。と。と。と。汲。水。有。附。月。と。情。人。と。一。と。公。人。重
附。小。あ。ま。殺。奉。と。重。た。か。く。 附。心。と。く。日。汲。水。老。不。信。是。取
の。く。と。汲。水。老。小。重。た。か。く。と。と。と。と。公。人。重。た。か。く。と。と。と。と。公。人。重

又復佛示すくす不ふ變へんととももすすてて。石い法は戒けとと備びとと
 びびととりりののわわららいい 士し又また甲こう之し財さいととををめめるる
 ぶぶととぬぬととわりわりにに変へんとと備びののんん 師しのの白はく公こう身しん肉にく
 或あるははせせいいののがが中ちゆうとと分ぶん別べつとと難なんとと難なんとと難なんとと難なんとと
 取とけけららひひののがが平へい生せいはは小せうけけももああららずずととああららずずににああらら
 けけももたたととりりがが一いつ法はふ事じおお親しんとと大だい師しありあり。至し人にんわわんん人にんとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 秘ひののううやや肉にくのの下げ體たいとと八はつ法はふののわわららずずをを平へい日じつををのの
 一いつ教きやうととももんんたたかかししばば変へん化けののまま取とりり入に法はふ深しん変へん有あ下げ土ど盡じんとと
 一いつ律りつ号ごうをを世せいにに法はふ深しんとと示しすす

一いつ師しのの財さいとと備びととりりののわわららいい 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと

一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと
 一いつ念ねんののががとと我わが身みののよよめめととううふふととううふふととううふふととううふふとと

かき二城と程のては利が廣大也。とて利が倍々此れ
せりゆくひを。城無一あり。中川の信志及先号去言の
信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の

信志の事

四十一

守りて是ありふ今時を。取のて。勢つんを。信志の
入るる人あり。先号大なり。或は痛極。此のわ。信志の
年久し。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の
。信志の事や。海位より久し。今此所より信志の

信志の事

四十二

葉向の次第と示事

一傳お慰甲く云。相尙平月傳徒のまごせーと云。氏傳のまごせ
 家夷りや。傳の口老傳徒。大好ま。り。傳のまごせ
 と。傳人。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ

傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ

傳のまごせ

傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ
 傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ。傳のまごせ

傳のまごせ

傳のまごせ

よむと云ふ大教の二字は此の如く今修する
 ともいふは此の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 人を知る。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く

(其)

儒釋道の次第を示す

一修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く

修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く

其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く
 其の如く修する。修するは此の如く

(六)

學徒平日の用と示事

脚一夕徒亦示事。日在人の云。泰と実泰のうへ。悟と
 来悟と要すと。毛既も返るの心とせしむる。是れ事ハ
 大海のどろ。物入けりて深し。悟取を際引く。達處
 窮か。天も日已佛性なる。涌出。地も日已佛性なる
 涌出。日月及草木國家山河も日已佛性なる。涌出
 一。一切の物も到る人と。法王と名付成佛の境界。其の
 後。後者容易の教と起し。其の世也。若れ枝藝。斂術
 多法の指南と。十年二十年の修業。よく妙法
 つら。か。脚を成。なり。一。佛道の大神。脚
 也。た。は。は。の。と。一。三年。一。ふ。が。は。三。年。

今の成功あり。十年。若くは。十年。分の。成功。なる。ま。り。
 又。く。多。脚。と。稱。ん。く。も。よ。と。盡。す。と。記。さ。べ。り。の。後。書。を。て
 い。る。事。也。又。く。も。う。と。修。す。と。多。ハ。世。に。見。知。人。が。う。ふ
 とい。る。心。也。修。し。も。亦。復。也。是。一。歳。し。び。悟。取。あり。た。亦。不
 旧。見。と。う。ら。す。く。神。心。の。多。の。心。あり。と。その。の。ま。り。と。
 大。般。持。を。起。し。て。達。處。一。と。盡。す。べ。し。性。相。一。如。と。あり。也。
 此。の。心。一。と。盡。す。べ。し。十年。二十年。或。は。年。と。修。る。も。て。殺。骨
 碎。取。と。り。と。た。を。ぎ。ご。め。く。法。師。を。敬。信。に。め。ら。る。と。ま。も。
 又。一。偏。あり。と。施。者。の。男。女。の。相。を。ん。如。く。の。教。と。り。
 つ。し。の。心。也。又。法。佛。の。親。儔。あり。法。師。若。本。目。人。の
 所。若。く。飲食。の。節。と。あ。ふ。と。あ。れ。念。を。道。に。基。な。す。

冠より邪路示すの。越わらん。一切と救す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

大道。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

拾遺

あると。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。法苑珠林。起す。

いふに
四十一

考へては理の。はつこも是も八粒の性。あつらふは海を
川の性。うすくして。きつと造る。なまぬ。なまぬ。なまぬ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
海の中。あたふ。あたふ。あたふ。あたふ。あたふ。あたふ。
二人の兄。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。

わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。
わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。わが。

いふに
四十二

鬼性がさういふか、彼只其下つ小僧、清くさるる故、まご
大悟大徹中を何ぞす。底とほくして、清くさるるの
誤り、かまらぬ。示すと又、是る最、其示の是ら、
のさふわらひ、又、誤、亦、これにみえらる。かく、飲、み、
あそぶ。其、修、行、の、人、大、ま、小、らる。五、丈、六、丈、業、は、
断、つ、め、り、懸、へ、と、云、は、佛、の、根、本、佛、性、此、至、要、の、
実、不、思、性、性、を、さ、る、人、を、此、指、さ、る、時、ハ、此、後、不、
能、さ、る、義、ハ、流、連、少、う、く、と、い、ふ、時、ハ、
さ、と、い、ふ、中、の、あ、る、と、い、ふ、中、の、あ、る、と、い、ふ、
時、ハ、一、と、い、ふ、中、の、あ、る、と、い、ふ、中、の、あ、る、と、い、ふ、
の、ご、こ、物、を、懸、と、て、自、中、に、い、ふ、は、
及、而、が、ん、や、さ、ら、ふ、り、く、
彼、向、も、う、ら、ご、ふ、ら、り、く、
此、丈、の、目、小、并、妙、あり、ぬ、
さ、ら、わ、ご、め、ら、る、と、い、ふ、
○ 全

及、而、が、ん、や、さ、ら、ふ、り、く、
彼、向、も、う、ら、ご、ふ、ら、り、く、
此、丈、の、目、小、并、妙、あり、ぬ、
さ、ら、わ、ご、め、ら、る、と、い、ふ、
○ 全
仰、亦、く、日、無、と、す、く、
お、り、し、大、乗、此、法、に、く、
向、ま、り、こ、の、教、示、如、來、の、
應、の、さ、ら、く、
あ、ら、ん、が、の、法、大、
若、い、法、と、も、さ、ん、
若、い、法、と、も、さ、ん、

富一拾遺廿増補して重刊とのれ字
の誤とある所は悉く正し意は此差
ゆゑ原本とせり時宝曆十三癸未秋
季 志村友活的行年七十 敬書

宝曆十三歲末十一月

本所御仮橋横川通龜戸町

大住菴藏版

